

高田馬場におけるラーメン店集積のメカニズム

亀本 さやか

東京都新宿区の高田馬場駅周辺はラーメン激戦区として名高く、現に55店舗ものラーメン店が営業を行っている。ラーメンは歴史の浅い料理であるため、その調理法は発展途上であり制約がない。そのため極めて各店に固有のバリエーションを持っており、一定レベルの味を超えると集積しても競争にはならない。またラーメン店を開業するには長年に渡る修行ではなく独自の調理法が重要だといえる。よってラーメン店を開業するために常に食べ歩き研究する姿勢が求められはするが下積み期間は短く、またその店舗形態から開業資金も比較的安く済むため業界への参入障壁は低い。本研究ではラーメン店集積の現状と集積過程の調査、高田馬場を生活圏とする早稲田大学の学生へのアンケート調査を行った。そしてその結果から高田馬場におけるラーメン店集積のメカニズムについて考察した。

調査の結果、高田馬場で現在営業している店舗のうちそのほとんどが通り沿いに位置しており、55店中29店が2005年以降に開店した新しい店で、その店舗の雰囲気は従来のラーメン店像に当てはまらない独自性の強い店が多い。元ラーメン店の空店舗は3店あり、そのうち1店舗はまた別のラーメン店が入居することが決定しており、これは高田馬場では頻繁におこっている事例である。そしてアンケートより早大生は十分に高田馬場のラーメン集積を認知しラーメンを食べていることが分かり、とはいえ好きなラーメン店・嫌いなラーメン店を聞いたところ全店のうち半数以下の20店舗しか名前があがらず、そのうち7店は好きな店としても嫌いな店としても名前が挙げられていた。

つまり、自信と向上心のあるラーメン店主にとって高田馬場はチャレンジングな土地であるた

め、イノベーションを起こしうるラーメン店が多く集まり刺激を与え、その中で質の高いラーメン店が残っていくことで高田馬場のラーメン街としての価値が高まっている。こういったダイナミズムを含んだラーメン店集積傾向をもつ高田馬場は発展途上であるラーメンという料理、そしてラーメン業界にとって大変意義深い場所であるといえる。

西荻窪におけるアンティークショップ集積の起因と要因

黒澤 織江

JR中央線沿線の西荻窪駅周辺には、多くのアンティークショップがある。「西荻窪アンティークマップ」というものまで発行されており、64軒のアンティークショップが紹介されている。このマップは駅前の交番を初め、掲載されている店舗で無料でもらうことができる。そのため、休日になるとこのマップを持って西荻窪を散策する人々をよく見かける。24年前にアンティークマップを作った当時はたった9店舗しかなかったアンティークショップがここまで増えたわけは、この9軒をアンティークショップとしてひとまとめにし、地図化したことにある。実際はこの9軒のなかにはリサイクルショップが含まれており、厳密な意味でのアンティークショップではない。しかしアンティークマップが存在することで、人々は「西荻窪ってアンティークの街なんだ」と考えたに違いない。遠くから遊びにくる人、西荻窪でアンティークショップを開く人が増え、アンティークマップが発行された次の年から、アンティークショップの数は右肩上がりになった。現在でもこのマップに掲載されている店は、全てが厳密な意味でのアンティークショップだというわけではない。生活雑貨のリサイクルショップや、外国の民芸品を売っている店もある。しかしここで重要な